

# 岩槻城跡を探る

## 第4調査室 発掘調査

### 調査レポート① 岩槻城跡発掘調査事始め

#### ■初めての発掘調査

「竹たば遺跡」

記録に残る範囲で、岩槻城跡で初めて行われた発掘調査は、1963年（昭和38年）に行われました。この発掘調査は、縄文時代の貝塚の調査を目的としたもので、台地の縁辺部に2か所認められた貝塚の内の1か所に3本のトレンチ（細長い調査区域）を設定して行われました。調査を行ったのは、埼玉県立春日部女子高等学校社会部の皆さんです。調査期間は8月3日～5日の3日間でした。この調査では「竹たば遺跡」という名前が付けられました。現在は、発掘調査地点の名前として、「竹たば遺跡」を継承しています。

#### ■貝塚や古墳を発見

遺跡の土が上下逆転

調査の結果、縄文時代前期の貝塚、古墳の石室（横穴式石室）、平安時代の住居跡などが発見されたといえます。当初の見込みを上回る大きな成果だった、一応はそういうことができます。ただし、平安時代の住居跡は縄文時代の貝塚と古墳の盛土（封土）の下からみつかったとされていて、調査結果の評価にはいくつか課題がありました。通常、新しい時代のものは、古い時代のものの上に構築され、あるいは古い時代の堆積土などを掘り込んで造られますが、ここではその上下関係が逆転しているのです。

#### ■後世の掘削の跡

永楽通宝

直刀

破壊が進んだ石室

貝塚の貝の間からは永楽通宝が出土したといえます。また、1940年（昭和15年）頃には、調査地点のあたりから直刀が出土したといえますから、その頃には古墳の石室の上部は破壊されていたことが推測されます。実際、発掘調査の際の写真（図1）を見ると、古墳の石室に積まれていた大きな石材は粉々に割れた残欠状となっており、



図1 古墳の石室  
『竹たば遺跡』(文献1)より

後世の掘削の爪痕が歴然としています。こうしたことから、最終的に平安時代の住居跡が造られたあと、千年余りの歳月を経る間に掘削が及んで、古墳を構築した土はもとより、平安時代の住居跡に埋まった土、縄文時代の貝塚までも、本来の堆積秩序が改変されていた、このように考えることができます。かなり大規模な掘削が行われていたことがうかがわれるわけです。

■耕地整理

調査地点の周辺一帯では、1933年（昭和8年）から1937年（昭和12年）にかけて、都市計画事業として耕地整理が行われました。これにより、街路と土地区画が大きく更新されました。直刀が出土したというのも、この耕地整理竣工直後のことです。

■耕地整理が原因？

では、耕地整理の施行とその後の開発がこうした破壊をもたらしたのでしょうか。

■調査地点はどんな場所？

ここであらためて、「竹たば遺跡」として発掘調査が行われた場所はどこだったのかを考えてみましょう。

■発掘調査の位置

下の図は、発掘調査報告書に掲載された発掘調査の位置図です（図2）。10～12の数字が記された線は等高線です。標高12mほどの平坦な台地と北側に広がる低地、そしてそこに向かう斜面を読み取ることができます。線で囲ったなかに点が書かれているところは、調査のきっかけとなった貝塚です。調査が行われたのは、1～3の数字が納められた細長い長方形のところ。西側の貝塚をターゲットとして調査が行われたことがわかります。また、調査地点の西側には、狭い入り江状の低地が入り込んでいて、台地のコーナーのあ

台地縁辺に貝塚

西側に入り江状の低地

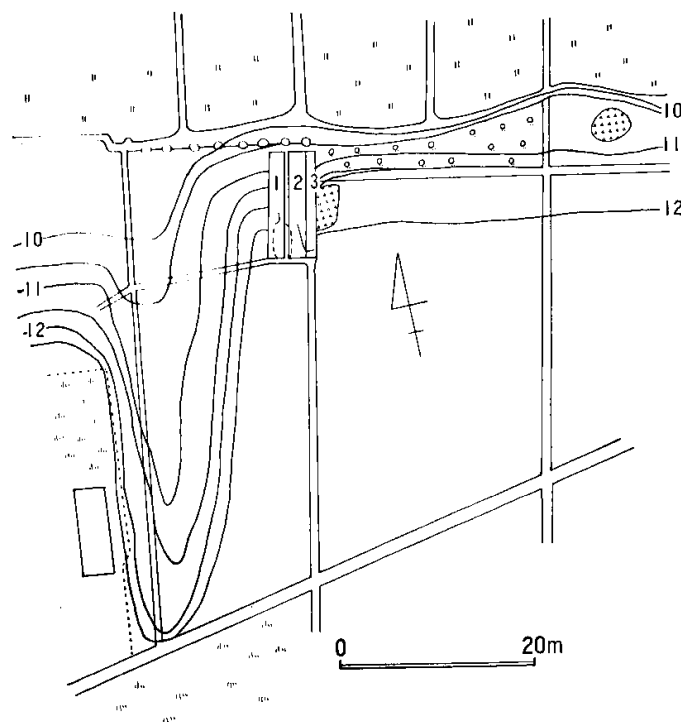


図2 「竹たば遺跡」の調査位置  
『竹たば遺跡』（文献1）より

■耕地整理直前の地図から探る

たりで発掘調査が行われたこともわかります。

この図だけでは、これがどこなのかはわかりませんが、1930年代の耕地整理が行われる直前に作成された地図と対比してみると、それがどんな場所だったのかが、もう少し詳しくわかります。その図は、『埼玉県南埼玉郡岩槻町全図』（昭和7年測量）、その概要をトレースしたのが下の図です（図3）。



図3 1932年（昭和7年）の調査位置周辺の概要

『岩槻城樹木屋敷跡発掘調査報告書』（文献2）より

■調査の位置①

1940年代に撮影された空中写真などと、他の情報もあわせて考証してみると、赤丸を付けたあたりが図2の範囲であることがわかります。もやもやのトーンを付けた細長い区画（▲のところ）が、図2の西側の入り江状の低地。これを基準として推測すると、ほぼ★のあたりが調査地点となります。なお、▲の区画は、耕地整理前には南側にも続く一連の区画だったものが、耕地整理で新しく道路が造られると、道路のあたりは埋め立てられたことが、二つの図の対比からうかがわれます。確かに耕地整理によって、調査地点の周辺には大きな変化が生じていたわけです。

埋め立てられた  
入り江状の低地

■調査の位置②

岩槻城の存在  
主郭部をトレース

『岩槻城並侍屋敷  
城下町迄総絵図』

ところが、さらに時間をさかのぼってみると、もっと大きな変化の要因が浮かび上がってきます。それは言うまでもなく、岩槻城の存在です。実は図3は、1932年の測量図から岩槻城の主郭部の範囲を抜き出してトレースしたものです。江戸時代に作られた岩槻城絵図の中で、精度の高い絵図として知られる『岩槻城並侍屋敷城下町迄総絵図』（さいたま市立博物館所蔵）から、図3の赤丸の周囲を抜き出して、図3の同範囲とくらべてみましょう（図4）。

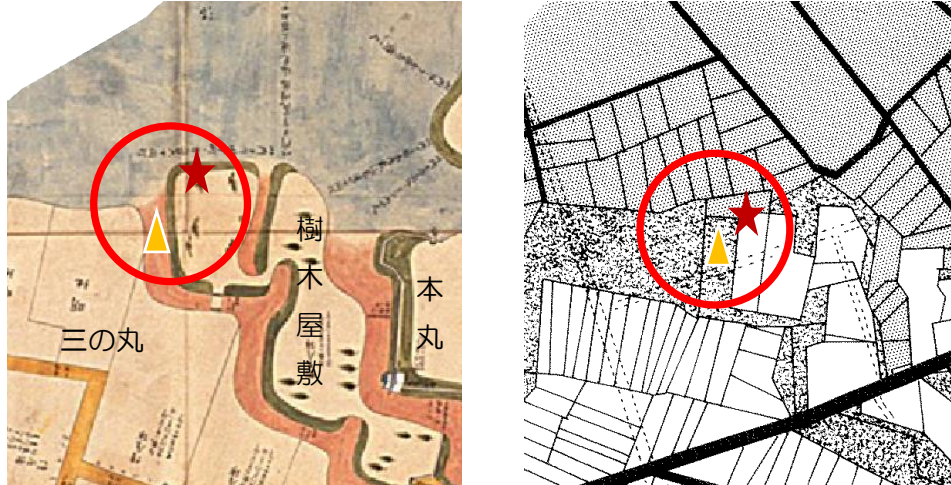


図4 岩槻城絵図との比較

■樹木屋敷（曲輪）  
の中

樹木屋敷の土塁  
三の丸との間の堀

二つの図を比べてみると、発掘調査地点は樹木屋敷（じゅもくやしき）という曲輪（くるわ）の北西端に位置していたことがわかります。しかも、そこは、曲輪の外周に築かれた土塁のあたりです。細長い区画はその土塁の続きと、三の丸との間を隔てる堀にあたっていました。

■岩槻城跡の発掘調査から

無数にみつかる穴

岩槻城跡の発掘調査では、およそ400年間に及ぶ岩槻城の存続期間に繰り返し掘り込まれた、さまざまな穴が見つかります。場所によっては、足の踏み場もないほどに無数の穴があく場合もあります。こうした大小さまざまな穴の掘削は、地下に残された住居跡などを破壊しつくしてしまう場合があります。破壊しつくさないにしても、考古学において重要な土の堆積秩序を乱してしまい、土の層の上下関係や古い穴同士の新旧関係の把握を不安定なものにしてしまいます。

先行する土層  
堆積秩序を破壊

■城絵図の形になる  
前に移り変わった  
城の形

繰り返された  
堀の掘削

そればかりではありません。江戸時代の岩槻城絵図に描かれた堀や土塁は、江戸時代の初期に最終的に成立したものであることも、発掘調査の蓄積からわかってきました。これは、戦国時代から江戸時代初期にかけて、城の形が造り替えられたことの結果です。堀の掘り替え、土塁の築き替えとともに、台地のへりのあたりの形にも手が加えられていたと考えられます。少なくとも、「竹たば遺跡」発掘調査地点の北側は、低地から城内への侵入を防ぐために、台地のへりを切り落として、急斜面を人工的に造り上げていたはずでした。

台地へりを崖に改造

■曲輪の中は、整地と  
平坦地の造成

さらに、堀や土塁、斜面の切り落としなど、人工的に高低差や急傾斜を造

り出す一方で、堀や土塁で囲われた中は、平坦な地盤に造成されました。古墳の山などは、早い段階で邪魔者にされ、平に削られていたことも十分に考えられるのです。

■土塁パックで遺跡が保護された？

その一方で、図4で見たように、「竹たば遺跡」の発掘調査地点が江戸時代には土塁の下になっていたとすると、土塁の厚い盛土にパックされ、明治時代以降に土塁が掘り崩されるまで、先にお話ししたような無数の穴が掘られることはなかったはずです。古墳などの破壊を進めた岩槻城は、江戸時代の初期以降は、古墳をはじめとする古い遺跡を保護する役割に転じたわけです。

■「竹たば遺跡」発掘調査の意義

以上、長々と、また回りくどい形で「竹たば遺跡」発掘調査のことをお話ししてきました。この発掘調査と岩槻城との関りは、永楽通宝が出土したことくらいしかありませんが、遺跡としての保存状態とそれがどんな場所だったのかを具体的に考えてみることを通じて、岩槻城が造られたことがそれより前の時代の遺跡に及ぼした影響を推測することができました。江戸時代の土塁が築かれたその直下には、それ以前の遺跡が比較的よく残っていること、このことは、戦国時代や室町時代の岩槻城に関連するものも、土塁の下では江戸時代の掘り込みから保護され、良好に残されている可能性があることを意味しています。岩槻城跡における初めての発掘調査は、遺跡としての岩槻城跡のあり方を考える糸口を私たちに示してくれているのです。

こうした遺跡としてのあり方は、今後、「調査レポート」で順次取り上げていきます。

## おもな文献

- ・文献番号、執筆者、刊行年、書名または論考名、(掲載書)、発行者の順で紹介しませ
- ・文献の配列は、本文で言及したものを先に掲げ、その後は刊行年順に配列しました。
- ・文献番号を太字にしたものは、さいたま市立図書館が収蔵している図書です。所蔵館は、さいたま市図書館ホームページにて御確認ください。

- 1 三友国五郎・安岡路洋・塩野博・庄野靖寿 1965年『竹たば遺跡』 埼玉県立春日部女子高等学校
- 2 小林照教ほか 1993年『**岩槻城樹木屋敷跡発掘調査報告書**』 岩槻市遺跡調査会  
※同年、岩槻市教育委員会より再刊
- 3 岩槻市 1983年「竹たば遺跡」『**岩槻市史 考古史料編**』 岩槻市役所
- 4 塩野博 2004年『**埼玉の古墳〔北埼玉・南埼玉・北葛飾〕**』 さきたま出版会
- 5 笹森紀巳子ほか 2008年『**第32回特別展 さいたまの古墳**』 さいたま市立博物館